

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3058942号

(45) 発行日 平成11年(1999)6月22日

(24) 登録日 平成11年(1999)3月10日

(51) Int.Cl.⁸

A 61 B 5/00
G 01 K 7/00

識別記号

101
341

F I

A 61 B 5/00
G 01 K 7/00

101 K
341 G

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 OL (全 6 頁)

(21) 出願番号

実願平10-8763

(22) 出願日

平成10年(1998)11月6日

(73) 実用新案権者 598153054

蘇 宛萍

台湾台北市士林區延平北路6段511巷22號
3樓

(72) 考案者 蘇 宛萍

台湾台北市士林區延平北路6段511巷22號
3樓

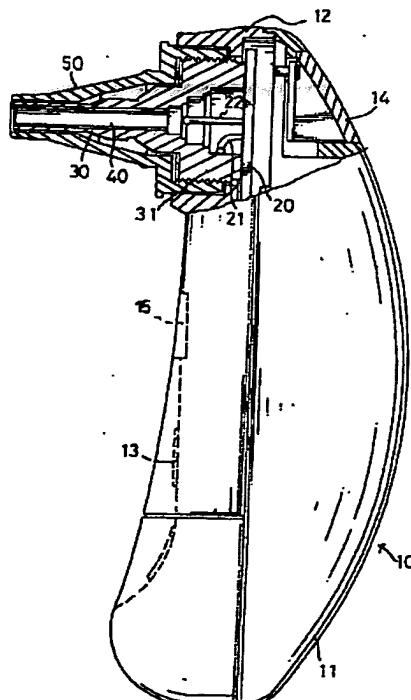
(74) 代理人 弁理士 木村 高久

(54) 【考案の名称】 耳当て式体温計

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 正確に且つ迅速に体温を測定することができる耳当て式体温計を提供する。

【解決手段】 取っ手部11と頭部12と取っ手部11上に形成される電源スイッチ13及びモニター15と頭部12の後面に形成される測定スイッチ14とを含む本体10と、耳当て式体温計の内部に縦方向に取付けられる電路板20とその電路板20からそれぞれ別々に延出する二つのセンサー21、22と、センサー21と電気接觸すると共に、本体側の一端が電路板20と粘着結合され、外表面にネジ山31を有する円柱状に形成される中空の金属ブロック30と、金属ブロック30の内部に挿入し、且つ本体10側の一端が金属ブロック30の内部と電気接続し、本体10側の一端中央にセンサー22が設けられる導波管40と、外側から金属ブロック30をカバーするように螺合する外カバー50とからなる。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 取っ手部(11)と頭部(12)と前記取っ手部(11)上に形成される電源スイッチ(13)及びモニター(15)と前記頭部(12)の後面に形成される測定スイッチ(14)とを含む本体(10)と、耳当て式体温計の内部に縦方向に取付けられる電路板(20)とその電路板(20)からそれぞれ別々に延出する二つのセンサー(21、22)と、前記センサー(21)と電気接続と共に、本体側の一端が前記電路板(20)と粘着結合され、外表面にネジ山(31)を有する円柱状に形成される中空の金属ブロック(30)と、前記金属ブロック(30)の内部に挿入し、且つ前記本体(10)側の一端が前記金属ブロック(30)の内部と電気接続し、前記本体(10)側の一端中央に前記センサー(22)が設けられる導波管(40)と、外側から前記金属ブロック(30)をカバーするよう螺合する外カバー(50)とからなることを特徴とする耳当て式体温計。

【請求項2】 前記導波管(40)の内・外表面を平滑面にするために、前記導波管(40)の内表面を鏡面処理、鍍金処理し、外表面を鍍金処理することを特徴とする請求項1に記載の耳当て式体温計。

【請求項3】 前記外カバー(50)と前記金属ブロック*

* (30)と前記導波管(40)との間に適当な隙間を形成させることを特徴とする請求項1に記載の耳当て式体温計。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の斜視図である。

【図2】 本考案の分解斜視図である。

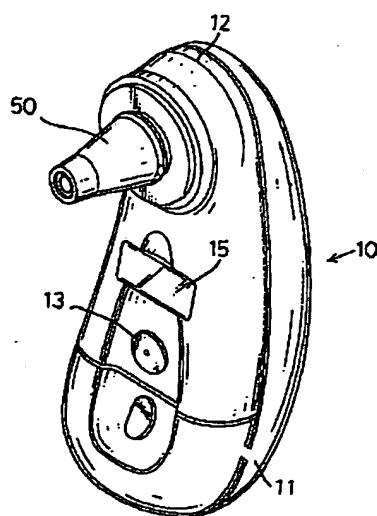
【図3】 本考案の側面透視図である。

【図4】 本考案の実施例の側面透視図である。

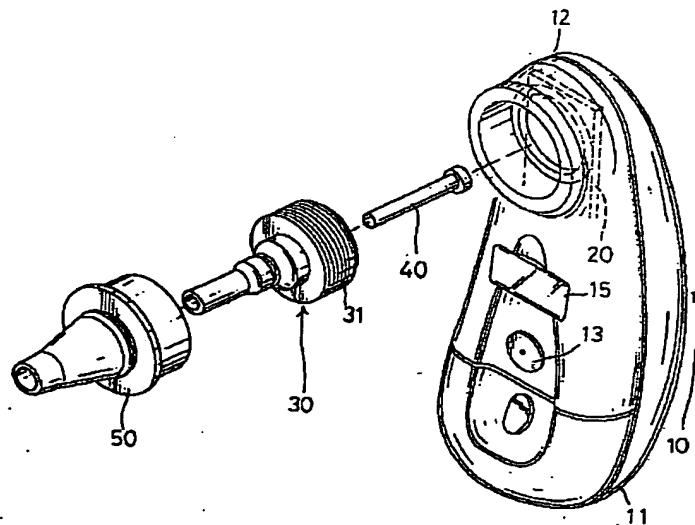
【符号の説明】

10	…本体
11	…取っ手部
12	…頭部
13	…電源スイッチ
14	…測定スイッチ
15	…モニター
20	…電路板
21	…センサー
22	…センサー
30	…金属ブロック
31	…ネジ山
40	…導波管
50	…外カバー
60	…耳

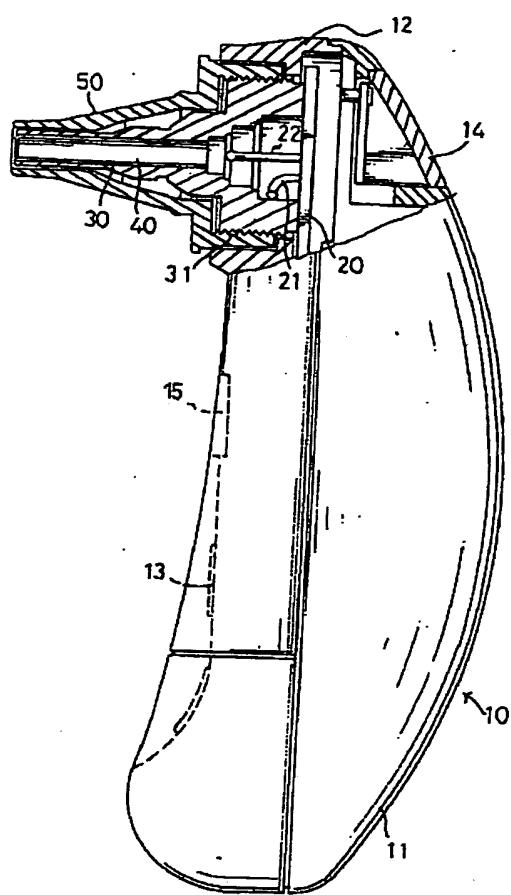
【図1】



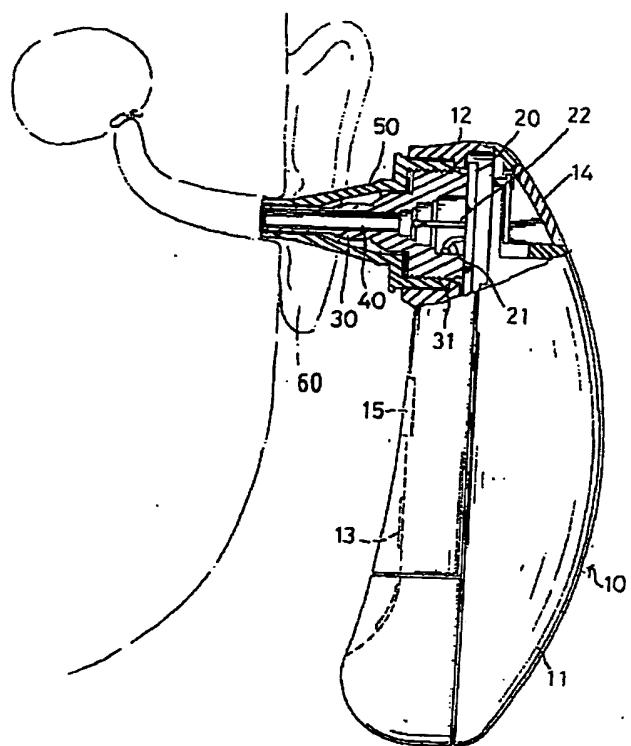
【図2】



【图3】



[图4]



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、人間の耳を介して体温を測定する耳当て式体温計に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来の体温計は主に人間の脇の下で体温を測定するものと、耳で測定するものがあった。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

上述した従来の脇の下で体温を測定する体温計は測定時間が長いため、子供などは嫌がることがよくあった。最近では人間の耳で体温を測定する体温計が開発され、その耳当て式体温計はセンサーが測定する温度を変化させないために開閉が素早いシャッター式を採用し、測定時間短縮という目的を達成した。しかし、体温を測定するセンサーが一つだけしかなく、外部気温の激しい変化にも耐えられないため、測定体温が不正確になってしまうという問題点があった。

【0004】

この点、本考案は二つのセンサーを使用することにより、気温に対する影響も考慮されているので、正確に且つ迅速に体温を測定することができる。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

取っ手部（11）と頭部（12）と前記取っ手部（11）上に形成される電源スイッチ（13）及びモニター（15）と前記頭部（12）の後面に形成される測定スイッチ（14）とを含む本体（10）と、耳当て式体温計の内部に縦方向に取付けられる電路板（20）とその電路板（20）からそれぞれ別々に延出する二つのセンサー（21、22）と、前記センサー（21）が電気接觸すると共に、本体側の一端が前記電路板（20）と粘着結合され、外表面にネジ山（31）を有する円柱状に形成される中空の金属プロック（30）と、前記金属プロック

ク(30)の内部に挿入し、且つ前記本体(10)側の一端が前記金属ブロック(30)の内部と電気接続し、前記本体(10)側の一端中央に前記センサー(22)が設けられる導波管(40)と、前記金属ブロック(30)をカバーするよう外側から螺合する外カバー(50)とからなることを特徴とする耳当て式体温計を提供する。

【0006】

本考案は体温を迅速かつ正確に測定できるので、病人に発熱や風邪などの症状がある場合、すぐに正確な体温を知ることができると共に、病人を病院へ連れて行く判断も正確に行えるので、病気をこれ以上悪化させることはない。

【0007】

【考案の実施の形態】

以下、添付図面を参照して本考案の好適な実施の形態を詳細に説明する。

【0008】

図1は本考案の斜視図であり、図2は本考案の分解斜視図であり、図3は本考案の側面透視図であり、図4は本考案の実施例の側面透視図である。

【0009】

図4に示すように、本考案の耳当て式体温計の使用方法は、先ず電源スイッチ(13)を入れ、先ず一回目には気温測定をし、約五秒後モニター(15)に測定準備完了のマークが出たら、耳(60)に外カバー(50)を軽く挿入させ、測定スイッチ(14)を押し、二・三・四・五回目には体温及び気温の測定をし、六回目には気温の測定をする。そして、全六回の測定結果から計算された正確な体温の数値が、すぐに電路板(20)を介して前記モニター(15)に表示される。

【0010】

図1、図2及び図3に示すように、本考案は、下部に形成され、表面がR状を成している取っ手部(11)と、上部に形成され、円筒状を成している頭部(12)と、前記取っ手部(11)の上部に形成され、体温や気温を測定する際にON, OFFの役目をする測定スイッチ(14)と、その頭部(12)の下方に四方形に形成され、測定した体温や気温を表示するためのモニター(15)と、そ

のモニター(15)の下方に円板状に形成され、電源のON, OFFを制御する電源スイッチ(13)とを有する本体(10)と、前記本体(10)の内部に縦方向に取付けられる電路板(20)と、パイプ状に形成され、前記電路板(20)からそれぞれ別々に外部方向へ延出するように取付けられる二つのセンサー(21、22)と、前記センサー(21)と電気接觸すると共に、本体側の一端が前記電路板(20)と粘着結合され、外表面にネジ山(31)を有する円柱状に形成される中空の金属ブロック(30)と、前記金属ブロック(30)の内部に挿入し、且つ前記本体(10)側の一端が前記金属ブロック(30)の内部と電気接続し、前記本体(10)側の一端中央に前記センサー(22)が設けられる導波管(40)と、先端に行くにつれて先細になるように形成されると共に、外側から前記金属ブロック(30)をカバーするように螺合する外カバー(50)とからなる。

【0011】

また、前記導波管(40)の内表面を鏡面処理、鍍金処理すると共に、外表面を鍍金処理し、前記導波管(40)の内・外表面を平滑面にすることにより体温を迅速且つ正確に測定することができる。

【0012】

また、前記外カバー(50)と前記金属ブロック(30)と前記導波管(40)との間に適当な隙間を形成させているので、外部気温に激しい変化があっても内部気温はそのままの気温を保つことができ、体温や気温を正確に測定することができる。

【0013】

【考案の効果】

本考案は二つのセンサーを使用することにより、気温に対する影響も考慮されているので、正確に且つ迅速に体温を測定することができ、大変便利である。